

令和三年度 前期選抜学力検査問題
国語 (一時間目 四十五分)

受検番号
氏名

注 意

一 問題は、表と裏にあります。
二 答えは、すべて解答欄に記入しなさい。

一 次の文章を読んで、1～7の問いに答えなさい。

表 合 計

合 計

二次の文章を読んで、1～7の問いに答えなさい。

三次の文章を読んで、1～5の問いに答えなさい。

三 次の文章を読んで、1～5の問いに答えなさい。

① 武州＊に西王Ａの阿闍梨＊と云ふ僧有りけり。「御年＊は、いくらにならせ給ひ候ふぞ」と、人の問ひければ、「六十＊に余り候ふ」と云ふに、七十＊に余りて見えければ、不審＊に覚えて、「六十＊には、いくら程余り給へる」と問へば、「十四＊余りて候ふ」と云ひける。遥はるか余りなりけり。七十＊と云へるよりも、六十＊と云へば、少し若こき心地して、かく云ひける。人の常＊の心なり。

色代＊にも、「御年＊よりも、遥かに若く見え給ふ」と云ふは嬉うれしく、「ことのほかに老いてこそ見え給へ」と云へば、心細＊く本意＊なきは、人ごとの心なり。

この心を能よく々思へば、人間の余執＊尽つきがたくして、この、仮かりなる身の惜あはしく、住ぢゆう処ゝも心とどまり、妻＊子＊眷＊属＊、よろづに付けて執しん心＊有ある故ゆゑに、老病＊も死苦＊も、恐おそろしく、疎とましく覚おぼゆる心なるべし。

【注】 ＊武州……現在の関東地方の一部

＊阿闍梨……弟子に教えて師範となる、徳の高い僧に対する敬称

＊色代……お世辞 ＊心細く……ものさびしく

＊本意なき……期待はずれで不本意だ

＊余執……心に染みついて離れない執着

＊妻子眷属……妻や子、親戚

1 給①ひ、故②に、を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

①

②

2 A～Dの部「の」の中で、意味・用法が他と異なるものを一つ選んで記号を書きなさい。

3 次の「僧」と「人」のやりとりについての、AさんとBさんの会話である。これを読んで、「a」「b」「c」に当てはまる内容を「a」には六字で、「c」には九字で、本文中からそれぞれ抜き書きしなさい。また、「b」には当てはまる「僧」の年齢を漢数字で書きなさい。

A 立派な僧に、ある人が年齢をたずねている場面だね。

B ある人が僧の返答を疑っていることが、本文中には「a」と書かれているね。

A そうだね。僧の返答と外見が合っていないと思ひ、再び僧に年齢をたずねたら、「b」歳だと分かったんだね。

B 僧の返答が予想外であったことが、本文中の「c」という部分に表れているね。

A 年齢を重ねた立派な僧であっても、いつまでも若い気持ちでいたいと思っているところが、この話のおもしろいところだね。

a	
c	b
	歳

4 この心について考えるため、次のような表にまとめた。「Ⅰ」「Ⅱ」に適する内容を、本文に即して現代語で書きなさい。

人から言われる言葉	言われた人の気持ち
お年よりもずっと若くお見えます	「Ⅰ」
「Ⅱ」	ものさびしく、不本意だ

5 老病も死苦も、恐ろしく、疎ましく覚ゆるは、「老いも病も死も、恐ろしく、嫌な気持ちになる」という意味である。人間がこのように思う理由を、筆者はどう考えているか。解答欄にしがって現代語で書きなさい。

人間は、「」ため。